

二葉亭四迷

エスペランタの話

エスペラントの話

エスペラントの話を聴きたい、よろしい、やりましよう。しかし先月の事だ、彩雲閣から世界語という謂わばエスペラントの手ほどきのようなものを出した、あの本の例言に一通り書いて置いたが、読んで下すったか。え、まだ読まない、困ったねえ、じゃ仕方がない、少し重複になるが、由来からお話しましょう。と云って何も六むずかしい由来がある訳ではないが、詰つまり必要は発明の母ですね、エスペラントの発明されたのも畢ひつき竟よう必要に促され

たに外ならんので、昔から世界通用語の必要は世界の人
が皆感じていた、で、或は電信の符号のようなものを作
って、○と見たら英人はサンと思え、独逸人はゾンネと
思えさ、ね、日本人なら太陽と読めと云ったような説も
あつたが、そんな無理な事は到底行われん。そこで、現
在の各国に国語中一番弘く行われている英語とか仏語と
かを採って国際語にしたらという説も出たが、これも弊
が多くて困る、成程英語が国際語になったら英人には都
合が好かろうが夫それでは他の国民が迷惑する。仏語でも独
逸語でも其通り、夫に各国人皆それぞれに自尊心という

ものが有るから、余所よその国の言葉が国際語になつては承
 知せん、何でも自分の国の言葉を採用しろと主張する、
 到底とても相談の纏まとまる見込はない、そこで是はどうでも何
 か新しい言語ことばを作つて、それを一般に行うより外手段は
 ないとなつて諸国の学者は此方面でいろいろ工夫してい
 る中に、千八百八十二年といえは明治十二年(ママ)に当ります
 かね、其年にウオラビュツクという新發明の国際語が出
 来た、かの符号などから視れば余程き気が利きいているけれ
 ど、惜しい事には余り人為的で、細工に過ぎていて之を
 人情風俗の違ちがう各国人の口へ掛けたら、どうやら支離滅

裂になつて了しまいそうで、どうも申分が多いが、外に之に代るべきものもないから、一時は相応に研究する者もあつた、我国でも読売新聞が其文法を翻譯して附録にして出したことがあるから或は研究した人もあるでしょう、しかし何国どこでも未だ弘く行われるという程に行かぬ中、千八百八十七年、即ち明治十八年(ママ)になりましますかな、其年の末に初めて所謂エスペラントが世おおやけに公おおやけにせられた。之は露国ワルソウの人だから詰つまり波蘭人だ、其波蘭人のドクトル、ザメンコフという人の発明で、かのウオラビュツクなどから視ると、遙かに自然的で無理が少ない

から、たちまち忽たちまちの中に非常な勢で諸国に弘まった。今では世
 界中で亜細亜や阿弗利加を除いては到る処にエスペラン
 ト協会が出来ていて、其教科書は各国語に翻譯されてあ
 る。私が始て浦潮ウラジオストツク斯徳でポストニコフという人からエス
 ペラント語を習った時にも、同氏から此語が欧米で盛に
 研究されつつある話を聴いたことがあったが、当時は仔
 細こあつて私の心は彼に在つて此こに無しという有様で、好い
 加減かげんに聞流して置いたが、其後北京へ行つて暫らく逗留
 していると、或日巴里パリから手紙が来た、巴里に知人はな
 いがと怪しみながら封を切つて見ると、エスペラント語

で日本に於けるエスペラント流布の状況が聞きたいという意味の事が書いてある。署名は仏人の名だが一向知らない人だ。さてはエスペラント協会員だなと心附いたから、日本では一向まだ駄目だという返事を出して置いたが、戦争前帰朝すると間もなく又墨西哥メキシコの未知の人から矢張エスペラント語で絵葉書の交換を申込んで来た、成程教科書は西班牙語スペイン語にも翻訳されてあるから墨西哥にエスペラントのあるに不思議はないが、それでも其葉書を手にした時には、実に意外の感に打たれましたよ、というものでエスペラントは今では思い掛けない処にま

で弘まっっているから、エスペラントは確かに世界通用語になりつつあるものと謂いつてよろしい。安孫あびこ子君の報道でみると、倫敦ロンドンの商業会議所ではエスペラントを書記の必須科目にしているそうだ、又黒板博士の話では倫敦の或るステーションにはエスペラントのガイドが居ると云う、かれこれ思い合せればエスペラントは或一部の人の想像するようなユートピアではない、既に世界の人から国際語として存在の価値あることを認められて現に応用されつつあるものだ。

発明後僅わずか二十年経たつか経たため中に此通り弘まっただの

は、一方から言えば人間の交通が益々頻繁になつて世界通用語の必要が切に感ぜられることを証拠立てると同時に、一方に於てはエスペラントなるものが此需要を満足するかつこころ恰好の言語であることを証拠立てるとまあいふべきでしよう。まあ試みにやつて御覧、それは造作もないものだ。文法は僅か十六則で、語根が一千語内外、それはあの「世界語」の終に載せた字書に残らず収まっているから、あの字書さえあれば、十六則の文法を便りにして、一寸本も読めれば、会話も出来、手紙もかける、格別研究する必要もない位のものだ。論より証拠、こういう私

は浦潮でポストニコフという人から習ったと云つても唯アルファベットの読み方を教えて貰っただけの事で其外何も習ったのではない、而もしかアルファベットも習い放しで、いろいろ忙がしかつたものだから、教科書は鞆の中へ放り込んだ儘ままツイ窺のぞいてみた事もなかつたが、北京で仏人の手紙が届いた時、字引を引き引き読んでみると造作もなく分つた、分る事は分つたが返事が書けるかしらと、何しても此時初めてエスペラント語で書いたものを読んで見たのだから、内々危ぶみつつ文法を読み読み、字引を繰くり繰りやつてみると、手紙も亦また造作もなく書けた、

尤も余り名文でもなかつたかも知れぬが、兎に角意味の通じる程には書けた積りだ。これは私ばかりではない誰でも然うなので、現に此間も去る友人から「世界語」を一部送って呉ると言つて来たから送つてやると、直ぐエスペラントで小版三頁程の手紙を寄越した、尤も此友人は倫敦に永く居た人で英文に堪能である所為もあるが、中々巧く書いてある、而してその言草が好いじやないか、エスペラントの容易しいのには驚いたトこうだ。が、實際その通りで驚く程容易しい、此通り誰でも研究という程の研究はせずとも、文法の十六則に一通り目を

透しとおしさえすれば、一寸文章も書ける。こんな容易しい言語が世の中に又と有ろうと思えぬ。そう容易しくては複雑な思想は言頭いいあらわせまいと思う人もあろうが、ところが然そうでない。かの「世界語」の終りに載せた世界語既刊書目を見ても分るが、既にシェークスピアのハムレットもエスペラントの翻訳になっている、ヂツケンスのクリスマス、キャロルも翻訳になっている、ハイネ、ゲーテの詩も翻訳されてある、バイロンも、プーシキンも、トルストイもシンキーウキチも翻訳されてある、私が曾て苺心かるしんと署名して四日間というガルシンのスケッチを反訳

して新小説に出したことがあるが、あんなものまで最もう反訳されてある。是は皆美文だが、哲学書にしてもラ
イプニッツのモナドロギイが反訳になつてゐる位だか
ら、凡^{およ}そ今の人間の言語で言頭わす事は、どんな事でも
エスペラントで言われぬということはない、それでいて
殆^{ほとんど}ど研究という程の研究をせんでも分るのだから、そ
れから推^おしてもエスペラントの将来は実に多望だ。十年
二十年と経つたら、今より数十倍応用の範圍が弘まり、
五十年も経つたら、各国の小学校の必須科目になるかも
知れん、現に既に必須科目にしている地方もある位だか

ら、そりや然ういうことになるかも知れん、私はエスペラントの将来に就いては大のオプチミスだ。

まだまだエスペラントに就いては大分言いたい事がある、英語は今では日本にも大分弘まっているようではあるが、しかしまだまだ知らない人も多いだろうからそういう謂わば外国語を習い後れた人には、是非エスペラントを勧めたい、それから英語なり独逸語なり、現在の外国語になると、何程手に入ったといつても、書いたものを直ぐ出版するということの出来る人は少からう、多くは是非一度英人なり独逸人なりに筆を入れて貰わなければ

ば、安心して出版は出来まい、ところがエスペラントは
何国どこの言葉としないから、同じ文法に依って、同
じ言葉を使いながら、各国皆其スタイルが違ふようだ、例
えば英人は英語を、独逸人は独逸語を、仏人は仏語をそ
れぞれエスペラントに引直して用いるから、英人のエス
ペラントには英語の臭味くさみがあり、仏人は仏語、独逸人は
独逸語の臭味がある。だから日本のエスペラントは日本
語の臭味があつたとて一向差支さしつかえないと思う。これは非
常に都合の好い話だから、願わくば多数の力でエスペラ
ントの日本式スタイルを作つて、日本語の精神でエスペ

ラントを使って世界の人を相手にドシドシ著作の出来るようにしたい。此外まだ言いたい事は沢山あるけれど、まあ、此位で止めて置こう。

(明治三十九年十月)

日本文学電子図書館

エスぺラントの話

著 者：二葉亭四迷

制作者：宮澤一郎

底 本：現代日本文学大系 1

「政治小説・坪内逍遥・二葉亭四迷集」

筑摩書房

昭和46年2月5日 初版第一刷発行

日本文学電子図書館